

周作クラブ会報

(第72号)

2018年8月25日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

第22回周作忌	1面
長崎文学館便り	2・3面
周作クラブ長崎便り	4面
劇団樹座の三十年⑨	5面
遠藤先生の思い出④	6面
原稿発掘 他	7面

第22回 周作忌へ

世界文化遺産のテーマを

遠藤周作『女の一生』の朗読に聴こう

毎年9月29日の命日に行なわれている「周作忌」も、第22回を数えます。今年
はユネスコの世界文化遺産に長崎・天草地方の「潜伏キリシタン関連遺産」が
登録され、その発表当日には遠藤周作文学館のある長崎・外海では、イベント
も行われました（この件に関する詳細は本誌2ページ参照）。したがって今回の
周作忌では、禁教の時代を背景にした遠藤作品として『女の一生』を取りあげ、
「周作クラブ長崎」の有志による朗読を短い時間ですが聴いていただく予定です。

「周作忌」と名づけられた会は当初、
故人とごく親しい人々によって行われて
いましたが、会を重ねるごとに遠藤文学
の読者や、「周作クラブ」会員の参加も
増え、会場も三田・慶應義塾大学前の
「中国飯店」から、現在の神田「如水会館」
に移って行われてきました。

振り返るとこの22年間、毎年、遠藤文
学をめぐるトピックスが報じられてきた
ように思います。未発表原稿・書簡の発
見や、新版・新装版の刊行、ハリウッド
での映画化、雑誌・テレビによる遠藤特
集などです。

そして今年、ユネスコの世界文化遺
産への「長崎・天草地方の潜伏キリシタ
ン関連遺産」の登録です。はじめはキリ
スト教解禁後に当てていた文化遺産とし
ての焦点を、徳川幕府による禁教期に変
えたことで世界遺産登録が認められたこ
とは知られるところです。そのため潜伏

キリシタン、あるいは隠れキリシタンを
題材にした遠藤文学が、あらためて内外
の関心を集めることになったわけです。

250年にもおよぶキリスト教徒潜伏
の歴史は、長崎・大浦天主堂での名高い
「信徒発見」で奇跡の復活を示します。
それを描いたのが、たとえば遠藤周作
『女の一生』（第一部・キクの場合）であ
り、また禁教下のキリシタンを描いたも
のなら「沈黙」とそれに連なる幾多の短
篇——「最後の殉教者」「その前日」など、
そして裏切る弱者への赦しを描いた「母
なるもの」などです。いわば、世界遺産
としてのテーマ「日本人キリシタンたち
が禁教下で守り続け育んだ独特な文化」
は、遠藤文学そのものとも言えるでしょう。

今年の「周作忌」では、そのような御報
告も含めて、遠藤文学の現況をお伝えい
たします。お誘いあわせのうえ、ぜひ皆
さまでお出かけください。（編集部／記）

周作クラブ・第18回定時総会のお知らせ

第18回定時総会を左記のように開催いたします。遠方の方には申しわけ
ありませんが、ご出席いただければ有難く、どうぞよろしくお願いたし
ます。出欠の御返事を9月20日までにはいただければ幸いです。なお、ご欠
席の方は、返信ハガキの「委任状」の欄への署名・捺印をお願いいたします。

日時 2018年9月29日（土） 16時30分〜17時30分

会場 如水会館 東京一ツ橋2の1の1 回03・3261・1101（代）

〈交通〉地下鉄「神保町」半蔵門線・三田線・新宿線 いずれもA8・A9
出口より徒歩3分。地下鉄東西線「竹橋」1B出口より徒歩4分。

議題 前年度事業報告／同会計報告／今年度事業計画／ 同予算計画／
役員改選／周作クラブ長崎報告／意見交換など

第22回 周作忌の集い・ご案内

会場は神田一ツ橋の如水会館です。上記のとおり、今年には世界文化遺産
として長崎・天草の教会・城跡などが登録された年でもあり、周作忌では
これを記念した朗読（周作クラブ長崎による）も、皆さまにお聴きいた
きます。また、遠藤文学への関心と動向についてもご報告したいと思っ
ています。周作忌は故人と縁のあった方々だけでなく、読者や周作クラブ会員
のための集いでもありますので、どうぞお誘い合わせて気軽にお出かけ
ください。

※同封のハガキで出欠のご返事をお願いいたします。ご同伴の方がおあり
であれば御氏名をお書きください。

日時 2018年9月29日（土） 18時〜20時

会場 如水会館 東京一ツ橋2の1の1 回03・3261・1101（代）

〈交通〉地下鉄「神保町」半蔵門線・三田線・新宿線 いずれもA8・A9
出口より徒歩3分。地下鉄東西線「竹橋」1B出口より徒歩4分。

会費 8000円（当日受付でお支払いください）